



第5号

昭和63年3月31日
貝塚中学区
青少年育成委員会

さる、三月六日（日）貝塚中学区青少年相談員主催の、第一回グランドゴルフ大会が、晴天のもと貝塚中学校校庭で行なわれました。

小中学生、九十名、余りの参加者は、競技、ルール説明のあと、各々好みの色のパターと、ボールを持ってコースに臨みました。

当日、初めてパターを持ってホールインワンをしたり、ホールをとんでもない場所に、とばしたりで、会場の校庭がすっかり楽しく盛り上がりました。

又、成績発表の後のおしるこ大会、二杯、三杯とおかわりする子ども達の姿はまさに楽しそう!!

この出会いと想い出は、きっと又地域での触れ合いに広がると、胸が暖かくなりました。私たち相談員は、地域青少年健全育成のために、色々な行事を催したいと思つておりますので、子ども達はじめ、地域の方々も、ふるつて参加、協力の程お願い致します。

最後になりましたけど、田中育成会長をはじめ、中学校の先生方、社会体育指導員の方々のご協力、参加ありがとうございました。

育成だより

地域のふれあい

—グランドゴルフ大会—

當世中學生氣質

人気の条件は「ユーモア」

貝塚中学校々長
森 一



ある出版社が全国十万人余の中学生を対象に物の見方、考え方を調査した結果が昨年の秋に発表されました。全国の中学生の意識の

に非常によく似ています。

友達や先生の最も人気のある条件は「ユーモア」ということです。

に厳しい先生は、三%、〇・七%です。このように中學生の価値感が大きく変つていて驚きます。

十八%です。本校でも、時々、廊下に紙くずが落ちていたり、トイレで、ペーパーではなをかんで、そのまままである光景がよくみ

特色を見ると 本校の生徒の実態
友達はエーモアのある人が七〇%
この三年間共に過して來た母校 惜しまず、そして、先生方と一体
貝塚中学校第二回の卒業生の諸君、 となり、登下校は勿論のこと、地
御卒業御目出度う。三年前一年、 域内の生
会 校が他に

二年の学級として、未完成の学校
施設の中で、第二グランドの造成、
体育館、ブレハブ校舎の建設等は、
第一回卒業生の諸君と同じ様に、
学校造りから始まり、緑を育て、
体育の場を造り上げ、素晴らしい
活にも眼
を注ぎ、
地域住民
代表と力
を合せて
頑張つて
おめでとう
区青少年育成委員会
田中信夫
あるだろ
うかと、
心から胸
を張るこ
とが出来
る程です

クラブ活動の環境造りにも、次の
一年生の為に頑張つて、勉学に励
た。 参りまし

んでくれました為に、二年生、一年生の諸君は、諸君の造り上げた業式を迎えた。今日卒業式を行なった教育の場を御観覧下さい。

道を苦労もなく歩むことが出来ました。見事でした。

又御父兄は立派な学校を造りたい
い、健全な子供達を育てたいと、
涙ぐましいほどの学校への協力を
持つた学
見事に造り上げました。
暖い愛情と、誠実な校風、そして、



卒業おめでとう

貝塚中学校青少年育成委員会
会長 田中信夫

に厳しい先生は、三%、〇・七%です。このように中学生の価値感が大きく変つていて驚きます。

又、廊下に紙くずが落ちていて、諸君が着用して来た、なつかしい校服は、千葉市で注目する処となり、友情を表し、特に女性服は、一段と輝いて居ります。

我が母校貝塚中学校が加曽利貝塚と同じ、地域社会の中心として、立派な教育、文化の目的を果すことが出来ると、心から信じて居ります。

下に紙くずが落ちていたり、トイレで、ペーパーではなをかんで、そのまままである光景がよくみられます。更に授業三悪「授業に遅効」、「おしゃべり」、「忘れ物」が多くなっていることも気がかりです。このような状況をどう指導していくかが今後の課題ですが、大切なのは、「本人の自覚」だと考えます。社会、地域、家庭、学校でねばり強く指導する必要を痛感しています。

(資料、「中学生白書」小学校館)

いくかが今後の課題ですが、一番大切なのは、「本人の自覚」だと考えます。社会、地域、家庭、学校でねばり強く指導する必要を痛感して、います。

真夏“グランプリ”大会

月30日午前9時より貝塚中校庭で

行ないました。真夏の暑い中、育成委員会委員の皆様方に、お集り頂きました、也誠に幸甚

頂き体力作りと、地域振興にと話し合い、理解と健康を高め、汗を流して頂きました。

近くに対して、「スポーツのできる人」、「勉強のできる人」はそれぞれ八%、三%です。先生に対しでは、ユーモアのある先生が三五%で「授業熱心な先生」、「規律に厳しい先生」は、三%、〇・七%です。このように中学生の価値感が大きく変つていることに驚きます。

又、廊下に紙くずが落ちていて、諸君が着用して来た、なつかしい校服は、千葉市で注目する処となり、友情を表し、特に女性服は、一段と輝いて居ります。

我が母校貝塚中学校が加曽利貝塚と同じ、地域社会の中心として、立派な教育、文化の目的を果すことが出来ると、心から信じて居ります。

諸君も、社会人として、又高校生として、これからは充実した大人としての責任と自信を持つて頑張ることを祈念して居ります。

卒業した後も、この三年間を懐かしみ、そして悔のない想い出を胸に秘め、希望に満ちた人生を、力強く、歩んで呉れる様、心から望んで居ります。

（資料、「中学生白書」小学館）

“真夏”グランドゴルフ大会

グランドゴルフ大会を、昨年8月30日午前9時より貝塚中校庭で行ないました。真夏の暑い中、育成委員会委員の皆様方に、お集り頂き体力作りと、地域振興にと話し合い、理解と健康を高め、汗を流して頂きました。

育成委員会活動報告

延べ三百人が街頭に

「愛のひと声運動」

非行対策会

地域で家庭で交通安全教育の徹底

を図っていきたいものです。

●その他

育成会非行対策部、北貝塚小P
TA、桜木小PTA、貝塚中PT
Aの校外指導部員が夏休み、冬休
み延べ人数各三百人が街頭に出ま
した。

●たまり場

ゲームセンター等には、小中高(と
くに高校生が多い)の生徒がい
たよう問題になる行為は見られ
ませんでした。時間については、
店側の協力で小中学生は六時に家
に帰していましたが、若干の生徒が
夜遅くまでゲームをしているの
ことです。

今年はビリヤード場ものぞいてみ
ました。

●危険な場所

交通量の激しさから五十一号線は
特に危険で、昨年、一昨年と大事
故がありました。また、モノレ
ル沿線の支柱による見通しの悪さ
等、地区には危険な道路がまだま
だあります。



和気あいあいムード

親睦研修旅行

レクレーション部会



写真は「一声運動実施風景」

青少年向

も楽しい一日でしたので、次回は、
もっと大勢の方々のご参加をお待
ちしております。

特別講習

二回目をおわる

交通安全対策部会

ひどいも
のが見ら
れました。

育成委員会が中心となつての交
通特別講習会も、昨年の秋で二回
目を終えました。この行事も回数
を重ねる度に年々受講者が増えて
おります。講師は東警察署の交通
係長で日曜日午前十時から開催さ
れました。

内容は、主な交通事故の発生原
因の説明とその映写でした。特に
交差点での事故が最も多く、その
基本は法規を忘れ、あるいは無視
したことによる事故との説明でし
た。

この講習を受けた人の特典は、
免許更新の際、稻毛の免許センタ
ーでの受講が免除になることです。
今後も運転免許者の方々のご協力
をお願い致します。

和気あいあいムードで、とつて

立歴史博

「健全な子供を育てるために」

家庭教育を見なおせ

講演会 御園生 隆 先生

昨年、十一月十五日(日)に、貝塚中学校体育館で、青少年育成委員会、北部プロ

ツクの研修会として、

千葉県私学審議委員、専修学校、各種学校協議会会長の御園生隆先生の標題のよう

な講習会が開かれました。

当日は、北部プロツクの椿森、都賀、千草台、みつわ台、山王、犢橋、こてはし台、そして貝塚中学校区の育成会の役員や一般の方々が集まりました。

御園生先生は、学

校教育、生涯教育

家庭教育について、豊富な体験をもとに身近な出来事を題材に、ユーモアを混じえて話され、会場のあちこちから笑いが起つたり、

一 教育は具体的でなければなら
ない。」

● 創造的に仕事をしなければ、技術屋さんは、三〇歳で使いものにならなくなることがある。

その時代には、学校で習った以上の技術進歩があるからである。

● 子どもの可能性は、多種多様である。高校／＼と追い込むこと

がよいことではない。子どもの個性を尊重して専門学校でも：

何通りもの進み方がある。

● たとえ家屋の構造が変わっても

親子が情でつながることは、どちら親が一〇〇回やらせてみよ。

● たとえ物語の構造が変わつても

親子が情でつながることは、と

ても大切である。……子ども部

屋に鍵、とんでもない話である。

● まことに、親子の情は、

やつていけるかどうか。



躾と勉強とはイコール

- 「英語しっかりやれよ。」「〇〇がんばれよ」という言葉がよくかけられるが、具体的にどうするかということが大切である。

（食べ物について）：甘い菓子やジュース類は絶対ダメ。がまんできない子になるし、暴力的になる。カルシウムをうんと食べさせたい。…手づくりの心のこもったものを食べさせていけば親子の情は必ずつながる。

● 子どもは、思いやりのある父母の姿を見て育つ、身近にいる大人の姿を見て育つ——夫婦は仲がよくなくてはいけない。
教えてほしい。
● 受験という節目をプラスに受けとるか、マイナスに受けとるか
「つまづいた敷居をけとばしてはいけない」そうではなくて、ほつまづいた石を踏み台にして

